

この「君が代」の絵を考えたのは、兄と二人で創立していた京都の両洋中学の父兄会の役員をしてもらった瀧内さんにお会いしたとき、「君が代」で絵を書いてみませんかといわれたのがきっかけでした。帰りに電車の中で電車の一枚の回数券の裏の白い面に書きかけ、さらに学校に戻ってから書き加えてつくったのでした。今でもそのとき書いた電車の回数券は大切に保存しています。

私の快心の速記文字画としてゐる絵に舟の絵があります。これは長男敏雄に何か絵を書いてくれとせがまれたときに書いたものです。私は絵をかくのは下手だけれども、速記文字の絵ならばいくらでもと書いて書いたものでした。昭和六十三年でしたか、中国から速記者が来日したことがあったとき、世話してもらわれた兼子次生氏（日刊工業新聞社）からみやげに私の速記文字画をやりたいから何か記念に書いてもらいたいと頼まれ、この舟の絵に日中友好の文字を書き入れてお渡ししたことがあるのですが、中国の代表者達から非常に喜ばれました。

快心作の一つに「この喜びは血と涙の歴史が生んだたまものと存じます！」というのがありますが、これはテニスのユニフォームに刺繍してもらって着ていたことがあります。